琴似中学校区　小中一貫した教育グランドデザイン(令和７年度版)

琴似中学校　　琴似小学校　　山の手小学校　　山の手南小学校

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において
「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

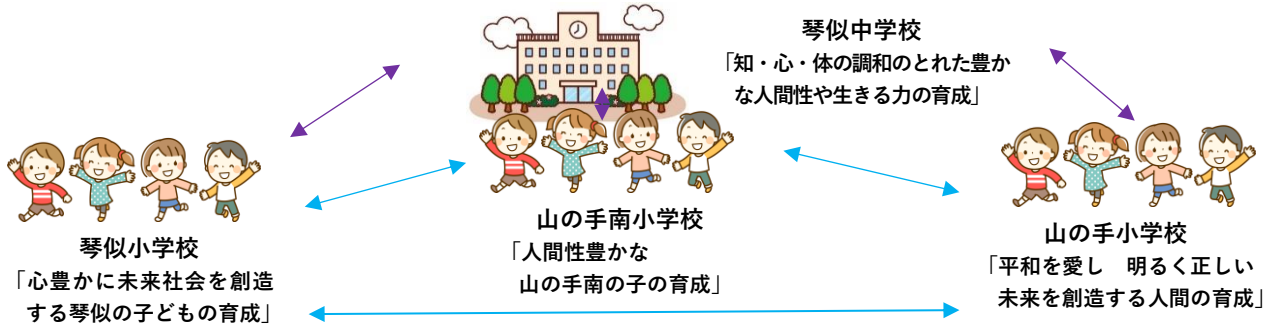
↓

全市共通で推進する「二つの柱」	
①課題探究的な学習	②発達の段階に応じた継続的な子供理解

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点　～「人間尊重の教育」を基盤に～

①	②	③	④
9年間を通した子どもの学びのつながり 自分にはよいところがある（自己肯定感を育てる）	子ども理解・生徒指導の連続性 自分が必要とされていると感じる（相互承認を生み出す）	教職員の連携・協議 子どものよさや可能性の認識（人間尊重の意識向上）	家庭や地域との関わり 多様な人々との協働

組織図と学校教育目標



地域の実態・願い	子どもの実態
家庭はもちろん、地域の方たちの支援や学校に対する期待は非常に大きい。地域に屯田兵屋があり、地域に根付いた学習への協力もお願いしている。地域愛を強く持っている方が多く、子どもたちの成長を温かく見守ってくださっている。教育に熱心な風土がある。	基礎学力が高く、学習に意欲的に取り組む子どもが多い。家庭の教育力の高さも伺える。一方、自己肯定感が低い子も散見され、逞しさにやや欠ける部分もみられる。自己抑制力、自律性を身に付けた子どもが多く、全体的に落ち着いた生活をしている。

琴似中学校区・目指す１５歳の子ども像
学びの楽しさを知り　仲良く素直で相手とつながり　心身ともに健やかな人

２つの柱と４つの視点を踏まえた教育目標

目指す教育		
知	徳	体
・基本的な学習習慣を身に付けた子どもの育成 ・自ら課題を設定し、課題解決へ向け、主体的に取り組む子どもの育成 ・他者の意見を受け入れ、自分の考えを表現する力の育成	・他者を思いやり、尊重する心を持った子どもの育成 ・他者への感謝の心を持ち、協力し合い、助け合える子どもの育成 ・自己肯定感を持ち、自分の良さに気付ける子どもの育成 ・地域を大切にし、文化を受け継ごうとする心を身に付けた子どもの育成	・運動に親しみ、心身の健康の保持増進に努める子どもの育成 ・食に関する正しい知識をもとに望ましい食習慣を身に付ける子どもの育成 ・性に関する正しい知識を身に付け命を尊重し大切に行動する子どもの育成

具体的な取組

２つの柱と４つの視点を踏まえた具体的実践		
知	徳	体
＊目指す教育を踏まえた９年間の取組 発達段階に応じた　a　小１～小４　b　小５～中１　c　中２～中３　の具体的な取組		
a b c　課題探究的な学習の充実 a b c　始業前着席と授業準備の習慣を定着させる取組 （小・小連携、情報の交流） b　キャリアパスポートの充実と継続 b　小・中連携した授業見学等の実践、相互研修 b　視野を広げる学習活動とカリキュラムの工夫 （小中合同相互研修等） a b c　授業公開と研修、外部講師の招へい a b c　１人１台端末を学習に生かす指導の充実	a b c　学校間の児童・生徒交流の推進 a b c　目指す 15 歳の子ども像にせまるための子ども理解の交流 a b　生活のきまりの共有と定着 b c　児童会活動と生徒会活動の連携 （ボランティア活動などへの社会参画やインターネットの安全な活用に向けたルール作り等を共同で行う） c　タイムリーな講演会の開催 a b c　道徳科の学びと特別活動の関連を図った取組	a b c　休み時間の運動推奨 a b c　各校の特色を生かした運動の推進と交流、地域に根差した運動の開発 （小・小連携、小・中連携、共同開発） a b c　食育に関する共同研究 a b c　性に関する指導の実施

令和７年度のスケジュールと連携事業

管理職会議→管　実務担当者会議→実

管１：年度初め会議(顔合わせ、グランドデザインの確認、行事予定の確認)

管２：「人間尊重の教育」の推進計画協議

管３：授業交流会意見交流、今後の推進計画の確認

管４：評価・課題・次年度実践事項の確認と協議

実１：年度初めの会議（顔合わせ及び今年度の実践事項の日程調整と確認）、７月部活動見学会について

実２：６月春の研究集会＝パートナー校小中合同研修会、他交流

実３：生活のきまり、キャリアパスポート、道徳教育、２月琴似中見学会について、他交流

実４：研修会への相互参加、次年度のグランドデザイン・行事予定等 次年度への確認

令和７年度の主な取り組み（予定）

・パートナー校小中合同研修会（＝札教研事業「春の研究集会」６月）
・部活動見学会（７月・１学期終業式の午後）
・琴似中学校区子ども会議（児童会と生徒会の交流・夏休み初日午後）
・授業公開を伴う校内研修会や講演会等へ小中相互参加（２学期）
・琴似中授業見学会（２月）
・子ども理解交流　（３月）
・共通の活動や生活の決まり、ICT のルールづくり、キャリアパスポートや道徳教育についての活動交流は、随時検討していく。

令和６年度の評価・次年度への課題

新型コロナウイルスが５類に移行し、児童生徒同士や小中の教職員同士の対面による交流再開の初年度となった。単純にコロナ禍以前に戻すのではなく、今年度新たな取組として始まった中学校区による札教研事業「春の研究集会」や「さっぽろっ子サミットパートナー校意見交流会」を始めとして、児童生徒同士や小中の教職員同士の交流を積極的に行うことで、時代にあった形態への移行を模索しつつ、その土台となる活動をすることができた。

部活動見学会（７月）、琴似中学校区子ども会議（7 月）、中学校見学会（２月）は継続する。札教研事業の春の研究集会（６月）は、「パートナー校小中合同研修会」へと移行し、今後の基盤となる形をつくることができた。今後は CS 発足に向けて、小中教職員同士の更なる共通理解を深めていきたい。